

テーマ別パスファインダー



国内でのフィールドワーク



✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2017年2月7日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

＜ 国内でのフィールドワーク とは？

フィールドワークとは、研究対象となる地域や社会を直接訪れ、聞き取りや観察を通じてデータを集めるという調査・研究手法です。フィールドワークは文化人類学で主に用いられている手法であり、一昔前までは「我々」が住んでいる所からは遠く離れた地域や社会を研究対象とする事と考えられていました。しかし、フィールドワークが対象とする事象はそれに限りません。「我々」が生きる所と物理的に近い所、すなわち国内においても、「他者」と向き合う実践というフィールドワークを活かした調査・研究は行うことができます。

フィールドワークとは、漠然とした問いを持ちながらフィールドに入り、調査を続けながらその問いを精緻化していく実践とも言えます。普段、何となく知っているけども深くは知らない人々の実践や集まりについて明らかにする上で、フィールドワークは適した手法であると言えます。

ちなみに、エスノグラフィーとは、フィールドワークによって得られた人々のあり方を記述する事、またその記述と概念化によって書かれたものを指します。

関係分野：社会学、文化人類学

II. はじめて学ぶ人へ

＜ 佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法：問いを育てる，仮説をきたえる』新曜社

フィールドワークの基礎について書かれた文献。筆者が実際に行った研究の過程から方法論が論じられ、具体的なノーツの取り方や分析方法がまとめられています。【外国図-4 階開架 361.7||54】

＜ 箕浦康子編著（1999）『フィールドワークの技法と実際 マイクロ・エスノグラフィー入門』ミネルヴァ書房

同じく、フィールドワークの基礎について書かれた文献。前半でフィールドワークのよって立つ理論についての議論が展開され、後半ではそれら理論的な議論を踏まえた上で実際に行われた調査・研究が展開されています。【外国図-4 階開架 002||87】

III. より踏み込んだ議論を求める人へ

＜ 藤田結子，北村文編（2013）『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社

フィールドワークをするにあたって重要な事柄である『文化を書く』『自己再帰性』『ポジショナリティ』『表象の政治』『ポスト構造主義とポストモダニズム』という項目について分かりやすく整理しています。また、フィールドワーク、エスノグラフィーにおける「新しい」アプローチについての解説もなされています。フィールドワークの面白さと難しさを理論的に理解する事を助けてくれる一冊です。【人図 361.9||FUJ】

◀ 宮本常一，安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑：フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

フィールドワークとは調査対象となる社会を生きる人々の生活世界の様相を明らかにする研究手法です。しかし、その人の生きる生活世界を論文や発表という形で公の目に晒すという行為は、とても暴力的なものではないでしょうか。フィールドワークは時に調査対象である人々の平和を脅かす暴力にもなりかねません。本書の著者はそのような「調査される側と調査する側の権力の非対称性」について論じています。フィールドワークが人びとにける「迷惑」と、その問題をいかに考えるかという問題提起をする一冊です。【総合図-A棟3階 学習用図書 389||MIY】

IV. フィールドワークを手法とした研究

◀ 佐藤郁哉（1984）『暴走族のエスノグラフィー：モードの叛乱と文化の呪縛』新曜社

国内で行われたフィールドワークの文献といえばこれ、と言われるぐらい定番の文献です。筆者が暴走族の集まりの間を「うろうろ」し、彼らの生きる世界を描いています。調査の展開、データの分析方法など、フィールドワークの教科書となる一冊です。【外国図1階書庫一般 369.1||45】

◀ 志水宏吉編著（1998）『教育のエスノグラフィー：学校現場のいま』嵯峨野書院

教育という領域に限定してはいますが、幼稚園から高校、保健室からフリースクールまでのさまざまなフィールドで行われた調査から書かれた一冊です。【外国図-4階開架 371.3||43】

----- MEMO -----

✧ [パスファインダーの凡例]

✧ 図書情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)
著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

✧ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

✧ 検索を容易にするために、ISBN (各図書固有の識別番号) や ISSN (各雑誌固有の識別番号) を記している場合もあります。

✧ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。